

新漁業管理制度推進情報提供事業

福田将数・下條 武

1. 目的

水産試験場漁獲統計を基にした漁況データと沖縄海域海洋観測の海況データを用いて漁況・海況情報を漁業者及び水産関係者に提供する。

2. 材料および方法

(1) 海況分野（概略のみ）

ア 沖縄島南～西沖合沿岸定線で、調査船図南丸（176 t）により観測を実施した。

観測項目は、

（ア）水深 1,000m までの CTD 観測

（水温、塩分、DO、pH、蛍光強度、照度）

（イ）ADCP による流況観測（10m, 50m, 100m 層）

（ウ）サーモサリノグラフによる調査

表層水温塩分連続観測

（エ）動物プランクトン調査

（オ）一般気象海象観測

観測終了後、できるだけ早い時期に観測結果を関係漁業協同組合等へ FAX 送信した。（6 回）

イ 観測以外でも図南丸が沖縄島南方および西方の調査を実施する際は、P - 8 (25° 58' N, 127° 42.5' E) で XBT 観測を実施し、結果を関係漁協等へ FAX 送信した。

ウ 定期航路船に観測機器を設置し、台湾 - 那覇 - 大東間の流況・水温を観測し、毎週観測結果を携帯電話で研究室に回収し、航路上の流況（10m 層）と船底部水温（3～6m）を図化处理した。

なお、この調査は、西海区水産研究所との協同研究で、「飛龍 21」（有村産業）、「だいとう」（大東海運）の協力によるものである。

エ ニライ（県設置の表層浮魚礁）に設置されているニライテレメトリーシステムにより観測される水温結果を整理し、毎日（土日および国民の祝日を除く）県内各漁協や関係機関に提供した。

(2) 漁況分野

海況情報、漁況情報をとりまとめ、毎月、漁海況情報を発行した。ソデイカ漁期中は県内 25 漁協のソデイカ水揚げ量を集計したソデイカ月報を発行した。また、全国 13 県のソデイカ漁獲量を集計したソデイカ情報を年 1 回、作成し、水産関係者に広報した。本部漁協のカツオ竿釣り漁業については、銘柄別漁獲量等を送付してもらい、これを整理した。

3. 結果および考察

2003 年の沖縄島中南部 4 漁協（糸満、港川、知念、沖縄市）のパヤオでのキハダ（10kg 以上）の漁獲量は 338 t で、過去 5 年平均の漁獲量 339 t と、ほぼ同じだった（図 1）。シビ（10kg 未満）の漁獲量は 300 t で、過去 5 年平均の漁獲量 285 t を若干上回った（図 2）。

2003 年 11 月～2004 年 6 月（2003-2004 期）の全県のソデイカ漁獲量は、前期を下回る約 1,800 t だった。また、過去 5 年平均の漁獲量 2,176 t を下回った（図 3）。

沖縄島の 2003 年の 読谷、金武、与那城、勝連、石川、与那原、知念漁協定置網の全体の漁獲量は 153 t で、過去 5 年平均の漁獲量 185 t より、約 30 t 下回った（図 4）。

本部漁協の 2003 年のカツオ竿釣りの漁獲量は 113 t で、過去 5 年平均の漁獲量 130 t を下回った（図 5）。

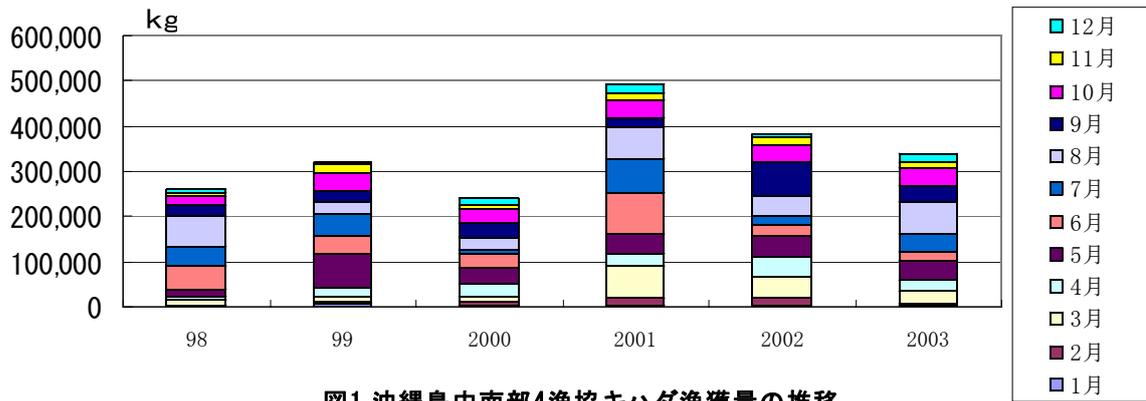


図1. 沖縄島中南部4漁協キハダ漁獲量の推移

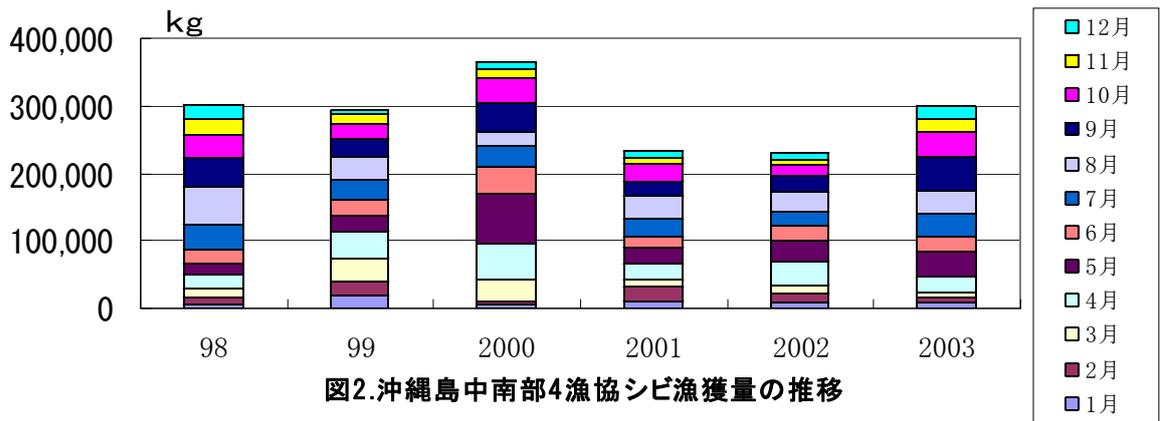


図2. 沖縄島中南部4漁協シビ漁獲量の推移

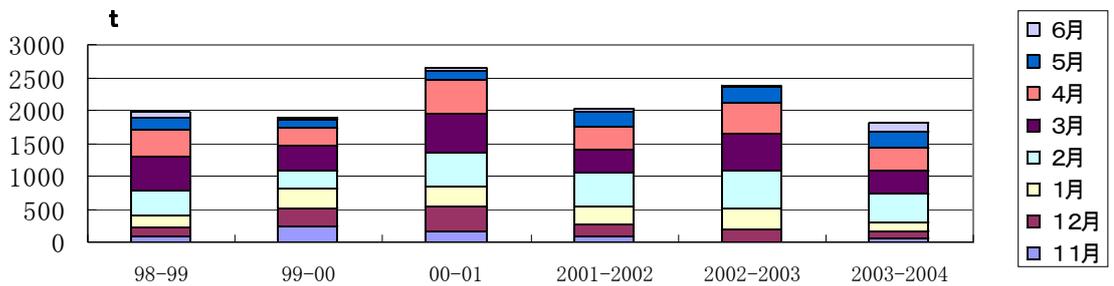


図3. 県内ソデイカ年別月別漁獲量

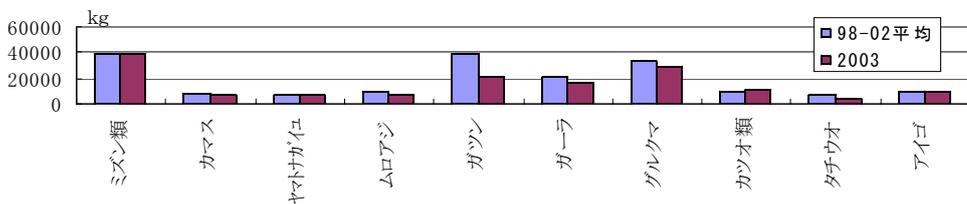


図4. 沖縄島7漁協定置網漁獲量

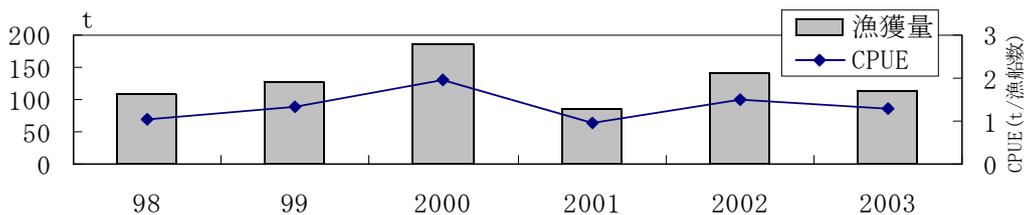


図5. 本部漁協カツオ竿釣漁獲量・CPUEの推移